

平成29年度事業報告

1. 概要

日本経済は、企業収益、雇用情勢等が良好となり経済再生に向けて大きく前進していると言われている一方、世界経済に目を向けると米中を中心とする貿易摩擦の不透明感が増しており、いまだに力強さを欠いた状態となっております。

このような状況の中、シルバー事業も少しずつ時代にマッチした制度に移行するとともに、発注者や会員のニーズに合った就業機会を確保するための活動を積極的に推進してまいりました。

しかしながら、少子化に伴い労働力人口の減少が危惧され始めており、今や大都会から地方都市へと広がりを見せております。

こうしたことから請負・委任・派遣事業による労働力の供給を柱としているシルバー人材センターにとっては、追い風が吹いているといっても差し支えない状況にあり、こうした期待に応えるべく積極的に会員確保に努めてまいりました。

また、ボランティア活動などを実施して、シルバー人材センターの役割を積極的にPRしました。

合せて、県連合が行なう緑地管理講習会やパソコン講習会を実施し、一般及び会員の受講者29名が資格を取得し後継者育成並びに会員拡大に繋げることが出来ました。

2. 活動状況

(1) 安全・適正就業対策の推進

安全がすべてに優先することを念頭に一人ひとりが自覚し、安全・適正就業に徹し事故防止に努めました。

- ・安全対策基本計画及び安全就業事業計画を策定し安全対策の推進と安全意識、普及啓発を行なった。
- ・安全・適正就業のパトロール隊による就業場所の巡回及び点検を実施した。
- ・安全委員会で事故発生の変因分析、再発防止に努めた。
- ・月刊「安全だより」の発刊による意識の高揚を図った。
- ・新規会員の安全講習会を開催した。

(2) 公正・適正就業の推進

シルバー事業の基本である、臨時的かつ短期的就業また、軽易な業務を再確認し適正な契約の受託や偽装請負の是正と併せ、ローテーション就業を推進した。

(3) 普及啓発活動

シルバー人材センター事業の基本理念と内容について、地域住民や企業の方々に理解と協力を得るため各事業所管内（大月・都留・上野原）ごとにあらゆる機会を利用して普及啓発活動を行ないました。

- ・普及啓発用チラシ、パンフレットによる PR 活動
- ・「シルバーの日」を中心としたボランティア活動
- ・市の広報を利用して S P 事業等の紹介
- ・ホームページによるネット社会に対応した PR 活動

(4) 就業機会の開拓及び提供

- ・会員の希望と能力に応じた就業機会の確保のため新たな就業分野の開拓に努めた。
- ・市の広報誌を利用して、労働者派遣事業への派遣会員を募集した。
- ・労働者派遣先に会員を派遣した。
- ・現役世代を支える分野のニーズ把握に努めた。

(5) 会議・研修会

センターの運営を円滑にするため、役職員の資質の向上を目的とした研修会に参加し合わせて情報の習得に努めました。

- ・安全委員会等を開催した。
- ・職員全体会議・所長会議・担当職員会議を随時開催した。
- ・国や県連合会の開催した講習会に参加した。
- ・新規会員研修会を開催した。

(6) 大月ウェルネス・ネットワーク事業の取組み

高齢者が主要な担い手になり、大月市の豊かな自然を活用した着地型観光を創出する取組みとして、都市住民や観光客をターゲットに交流人口の拡大を図る農業・里山体験やトレッキングなど各種交流体験を実施、併せて移住相談員が常駐する相談窓口で、移住に係る情報を提供するほか、移住体験イベントの実施、相談イベントの出張を通じ高齢者の就労による積極的な社会参加と、健康増進を図ることを目的として、また、積極的に活用することを目的とする事業（ハローネイチャーズ大月）を大月市から委託を受け行ないました。

3. 事業の実績

平成29年度の請負事業実績は、受託事業件数2,967件、就業実人員324人、就業延人員28,324人で、契約金額は168,076千円であった。前年度対比は101.6%で前年度実績を上回ることができ、地域住民や企業の要請に応えることができた。また、労働者派遣事業の契約金額につきましては、20,856千円で前年度実績を9.8%上回ることが出来ました。今後も地域社会の活性化に寄与するとともに、都留、大月、上野原各事務所管内で協力し就業機会の確保・安全就業の推進を図り会員各位が社会の担い手のリーダーとして自覚と誇りを持ち就業意識の醸成とシルバー人材センターの基本理念に立った組織運営に努めてまいりました。

以上、報告の概要であるが詳細については以下資料のとおりである。